

常木筑波大学教授によるアルサンジャン発掘調査現場を駒野大使が視察

9月4日、ファールス州アルサンジャンの日・イラン合同発掘調査現場を駒野大使とアフマディ文化遺産観光手工芸庁リサーチセンター長が視察しました。同調査は常木筑波大学教授が統括しており、もし同現場の7万年前の地層で人類が生活した痕跡（人骨等）が発見されれば、アフリカで誕生した人類が中東からイラン経由でインド以東に拡散したという説を裏付ける意義があります。

